

埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 武笠真次
編集 小松勝浩

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
TEL・FAX 048-838-0640

<http://www.tozans.justhpb.jp/>



電子版

3号目次

P1	東日本大震災支援計画
P2	県連の動き
P4	第18期登山学校受講記①
P5	第18期登山学校受講記②
P6	第18期登山学校受講記③
P7	第18期登山学校受講記④
P8	第18期登山学校受講記⑤
P9	岩ネットワーク参加報告①
P10	岩ネットワーク参加報告②
P11	救助隊訓練参加報告

★★★名称募集のお知らせ★★★
 電子版機関紙の名称を募集しています。
 是非良い名称を御願います。
 応募は e-mail: tozan_g@art-axis.com まで
 「名称」・氏名・所属会名を記入して送信下さい。
 後日理事会にて検討後発表します。採用しました
 名称の提案者には粗品を進呈します。

県連からお知らせ ★東日本大震災支援計画★

埼玉県勤労者山岳連盟理事長 武笠 真次

再び石巻に行きませんか！

2013年3月13日東日本大震災が起きて早や2年半になろうとしています。

災害支援では県連の皆さんには多くのご協力を頂きありがとうございました都市部や大きな町では片づけが進み、復興も始まっていますが、地理的ハンディキャップのある牡鹿半島の小さな浜辺集落では片づけも復興もあまり進んでいません。最近ボランティアの人も少なくなり、『少しでも手伝ってもらおうと助かる』『観光で見に来てくれるだけでもありがたい』と地元の人は言っています。労山埼玉県連もこれまでに何回か牡鹿半島で災害支援を行いました、被災地人の声を聞き、再び千葉県連と一緒に支援活動を行うことにしました。多くの方の参加を期待します。

日程 10月19日(土)～20日(日)
 出発 10月18日(金)22:00東上線「ふじみ野駅」西口ロータリー先 22:40 JR「南浦和駅」西口 まるひろ前

募集人員 20名

支援場所 宮城県牡鹿半島谷川(やがわ)浜(作業：牡蠣養殖など水産業の手伝い)

宿泊先 現地漁師の小屋(シュラフ持参・食事は自炊)

交通費 ￥15,000程度(中型バス利用の予定)

締切 9月6日(金)

申し込み方法 各山の会でまとめて申し込んで下さい。

申し込み先 加納 隆夫(県連自然保護担当)

Eメール kanot01927@Jcom.home.ne.jp



*尚、詳細費用・スケジュールは9月中旬までにご連絡します。

**委員会活動報告****全国連盟活動**

- ・ 労山組織基本問題調査会 9/28 13:00～ 9/29 12:00 (労山事務所3F於)
- ・ 関東周辺ハイキングクラブ 交流集会 9/28 13:00～17:00 (労山事務所1F於)
- ・ 関東ブロック交流集会 9/7 12:00～ 9/8 12:00 (千葉県富津市金谷かぢや旅館 於)

県連全体活動

- ・ 10/20予定の安全登山講演会は都合により11/24(日)に変更。講師打ち合わせ中。
- ・ 10/18夜行10/19～20 被災地支援活動 県連として22席中型バス使用し民宿泊を予定。HPにて詳細募集。

財 政

- ・ 連盟費未納、数件あり早急に入金願います。

機 関 紙

- ・ 8/14 電子版第3号HPに掲載。・ 電子版の名前を募集中。

ホームページ

- ・ 7/5 2013年度 第3回救助隊役員報告掲載
- ・ 7/5 第16回遭難防止・安全教育担当者会議・報告掲載
- ・ 7/10 機関紙 電子版2号発行
- ・ 7/19 大宮勤労者山岳連盟紹介
- ・ 7/28 岩ネット 7/13報告掲載

女 性

- ・ 第13回東日本女性登山交流集会「福島・うつくしまを登んべし」
10/13 15:00～ 10/14 全体集会 8:30～12:30(南会津ツートン台鞍)
参加者予定 新座8、ビスターリ3、所ハイ2、大宮1、わらび1 現在計15名
ハイキング

ハイキング

- ・ 委員会7/31済 8/28予定 ・ 全国ハイキング改訂版「ハイキングA・B・C」冊子
理事配布。 ・ 上記冊子、埼玉県連登山学校30部注文。
- ・ ハイキング委員会講演会25年1月末頃予定 講師未定

自然保護

- ・ 放射線測定器 貸出依頼 加納まで。

遭難防止・安全教育

- ・ セルフレスキュー日程 確認中

委員会活動報告

海外

- ・6/30～7/12 シャモニー・ツェルマット ハイキング 三郷山の会 10名
- ・8/15～30 ツール・ド・モンブラン&シャモニー近郊 ハイキング 三郷山の会 1名
- ・7/29～8/7 マッターホルン登頂 新座山の会1名、所ハイ1名



救助隊

- ・7/8 沢技術学習会13名
- ・7/20 沢での捜索、搬出訓練 (橋立川 於) 9名

登山学校

- ・登山と運動生理学7/6机上 7/7実技 那須茶臼 28名 +単科1名
運営委員 7/6 8名 7/7 8+2名
- ・山での救急法 日和田山周辺 8/2机上 8/3実技
- ・テント泊体験特別講座実施8/2-3 巾着田周辺

岩ネット

- ・7/13 日和田山6名(新座2、所ハイ1、わらび1、彩の山友2)
- ・次回は8月17日(土)開催予定です。

ブロック活動報告

西部(加納理事)	=9/12	交流ハイク打ち合わせ
南部(水谷理事)	=なし	
中部(青島理事)	=なし	
北部(木村理事)	=なし	

加盟団体活動報告

中部ブロック 大宮労山 6/30 総会 新会長 岡野和夫氏



登山学校

①

第18期登山学校第2回講座「登山と運動生理」に参加して

18期生 中嶋ますみ 記

「机上講座」7月6日(土) カルタスホール、常盤公民館、常盤公園

午前中に体組成・体力測定、午後は、登山と運動生理の講義を受けて、その後、公園で20kgのザックを背負って歩く練習をした。

体力測定では、閉眼片足立ちでいつまでも立っていたり、立ち幅跳びですごい勢いで飛んでいる人を見るのが面白かった。私もバランスよく筋力をつけて体力もつけたい。疲れのない身体になりたい。



「実技講座」7月7日(日) 那須 茶臼岳

北浦和から茶臼岳までバスで移動。峠の茶屋駐車場についたとき、雨が降っていたのでカッパを着て歩き始めた。少し歩くと雨は止んで暑くなってきた。でもまだ降ってきそう。同じ班の方が、カッパのズボンは脱いで上だけ来ているといいと教えてくれた。登っていくと、地上では35℃くらいあったのに、風が冷たくて寒くなってきた。カッパを着ていてちょうどいいくらい。途中、20kgのザックを背負って歩いてみた。たぶん私は5分も歩いていない。いつもみたいに適当に歩けない。一步一步足を出す。これがずっと続くとつらいけど5分なので良い体験だった。いつもと違う感覚で歩けた。茶臼岳の標高は1915m、雲が自分よりも下に見える。景色がきれいだった。となりに見える朝日岳はけっこう尖ってる。いつかあっちにものぼりに来ようと思った。登ってる途中心拍数を図ると130/分。ちょうど良さそう。

下山後はお風呂に入ってさっぱり。帰りのバスでは、でんでん虫のうた? など聞きながら、虹が見えた。雲にいろいろな色の光が写って、きれいだった。その後の飲み会も面白かったです。



登山学校

②

18期 登山学校 第2回「登山と運動整理」に参加して

第4班 綿貫康男 記

1日目(2013.7.6) カルタスホール・常盤会館・北浦和公園

朝から非常に暑く梅雨明けしたような(当日、梅雨明け宣言がされていた)真夏の日差しの中、北浦和駅からカルタスホールへと向かった。今回は2回目でもあり多少顔が知れてきているのか、あちらこちらで前回はお世話さま。今日は暑いですね。体力測定など学生時代以来なのでできるのかな?など多少の不安もありでも和気あいあいでスタートだった。水谷講師から本日の目的と内容説明の後、それぞれに血圧測定や体前屈など個人で行う項目をクリアした。後半はペアになったり一人一人の項目もあり老いも若きもそれぞれが精一杯挑戦し、時には拍手も起こり盛り上がった中での体力測定であった。

午後は場所を常盤会館に移し登山に必要な筋肉やトレーニングの方法歩き方・呼吸方法・水分や栄養分の摂取方等の講義があった。

その後、北浦和公園へと移動し20Kgを背負い歩荷訓練を行った。普段自分の背負っているザックの重さも考えたことはなかったが20Kgを背負って歩荷は思っていた以上に重く歩くスピードも上がらないなと感じました。今夏はテント泊に挑戦しようと考えているが自分で思っている以上に体への負担があり行程を慎重に考えなければいけないとも感じた。

いよいよ明日は茶臼岳での20Kg歩荷体験である。



2日目(2013.7.7) 那須岳

柳瀬川駅、北浦和駅を経由して一路、那須(茶臼岳へと向かった。)

那須ICを降り茶臼岳へと向かうにつれて予想よりも早く雨が降り始めた。

登山口の駐車場に着くと雨が本降り状態になり皆早々に雨具をつけての準備となった。

いつもの通りストレッチを行い班ごと一路頂上へ向けてスタートした。程なくすると皆の行いが良いのか雨も上がりいよいよ20Kgの歩荷訓練の始まりである。我が班は今回サポート役の坂元さんが自宅からわざわざ重いザックを用意してくれ班員がそれぞれ体験を行った。訓練は途中の峰の茶屋までの予定であったが班員の意気込みがすごく頂上までの自主訓練となった。頂上ではまずまずの天気で360度パノラマ満喫した。これがあるから山登りはやめられない。(経験が少ないくせに生意気です)

下山時は危険もあるとのことで歩荷は予定通り峰の茶から駐車場までとなった。今回、歩荷体験を行わせもらったが実際の山ではバランスをとることが非常に大切、また重い荷を背負うと呼吸も乱れやすくフッフッと息を吐くのが大切なことも学んだ。そして、重い荷を背負った後の自分のザックが異常に軽いギャップも感じ重いザックにも少し懂れた。帰路は温泉に入り祝福のビールが非常に美味しかった。その後コンビニにて補充し車内はさながら居酒屋に変わった。事故渋滞もあり到着は遅れたが充実した車内居酒屋となった。

昨日に引き続き運営委員の皆さま大変お世話になりました。

受講生を代表し来月からも宜しくご指導お願いいたします。

参加者の皆さんお疲れ様でした。



登山学校

③

第18期登山学校第2回講座「登山と運動生理」に参加して 18期生 遠藤 行孝 記

今回の講座の目的は自分の「体力」を知り「知力」を自覚し、事故原因「大」となる「バランス」の要領等を実践し安全登山に備えることでした。2日間の講座を受講して自分への反省点と皆で山を歩くことの楽しさを実感しました。

「机上講座」2013年7月6日(午前)カルタスホール(午後)常盤公民館、北浦和公園

午前中の「体組成」の結果はいつも医者に言われている「飲みすぎの高血圧デブ」でした。万歩計を毎日つけているのですが暑くなって歩数は減ってきたのにアルコールが増えています。(暑さが和らいだら)初心に帰り日々1万歩を目指します。

「体力測定」は内心ドキドキでした。40年ぶりぐらいでした。何とか自分の年齢の60代に入りたいと思っていいましたが、「立ち幅跳び」と「閉眼片足立ち」が情けない結果となり、最後の「上体起こし」に目標達成のプレッシャーがかかってしまいました。年を顧みず必至にトライしクリアできましたが、翌日からお腹周りが筋肉痛になりました。午後の常盤公民館での講義は昼の上でアットホームな雰囲気でした。内容は筋肉の使い方と鍛え方、加齢による「バランス」力の低下、バテない呼吸法や栄養の取り方等素人の私には非常にわかりやすく実践できるものでした。その後に「北浦和公園」へ移動しましたが、うんざりするほどの暑さでした。運営委員の方からザック背負い方、歩き方の指導をいただきましたが20kgのザックは普段とは別物です。歩き始めると左右に振られる感じがし、踏み出した足に体重をしっかりと載せることの大切さを体感しました。



「実践講座」2013年7月7日 那須 茶臼岳(1,915m)

私の地元の柳瀬川駅6:30貸切バス乗車。北浦和で残りの皆さんも合流し那須へ向けて出発。那須インターを降りて渋滞はあったものの峠の茶屋に10時過ぎに到着。準備のストレッチの後予定通り10:30スタート。雨の中コンパスを振り登り始めましたが、20分もするとやめました。きっと晴れ男、晴れ女がいるのでしょう。前回も習ったゆっくり小さく同じペースで歩くことと昨日習ったフッフッと息を吐くことを意識して登りました。

11:10から20kgのザックを交代で担ぎました。峰の茶屋で昼食をとり、山頂のお釜を時計回りに周り、登ったコースを降りて14:30に下山しました。途中3回心拍数を測り疲労度の確認を行いました。最初は雨が、途中からは風が強かったのですが楽しく、緊張しながら登山を行えました。今回すごいなと思ったのは、三浦雄一郎氏は80歳で毎日両足に重石をつけ、20kgのザックを背負ってトレーニングしたことと、運営委員の方々が20kgの砂袋を自宅から持ってきてくれたことです。頭の下がる思いです。最後はお楽しみの温泉+大ジョッキビール+移動酒場でのアルコール三昧(アカペラ付)でした。皆様、特に運営委員の方々ありがとうございました。1年間楽しく参加しますので今後もよろしくお願いします。





登山学校

④

第18期登山学校 第3回講座 「山での救急法」に参加して 18期生 和久津 淳子 記
夏真盛りの8月3日(土)4日(日)「山での救急法」の講習が行われた。

8月3日(土) 9:30~14:00 机上学習 北浦和カルタスホールにて

ダミーを使って心肺蘇生法をひとり2回ずつ体験。体重ををかけ胸に圧力をかける事30回、口から息を入れる事3回を3セット。結構な運動量で、皆さん顔を赤くしながらの体験となった。その後、三角巾のたたみ方、結び方の練習(この段階でかなり混乱)。頭、膝への巻き方、捻挫をした時の固定の仕方をペアで実習。しっかり巻きつけるのが難しい。体の中の止血点を確認しながら、止血法を学ぶ。

山の中だけでなく、日常生活の救急でも役にたつ事ばかり。いざという時に動揺しない様、しっかりと身につけたい。



テント泊体験特別講座 8月3日(土) 14:00~高麗駅巾着田周辺にて

特別講座として、希望者のみテント泊体験が行われた。1日目机上学習終了後、北浦和駅から高麗駅巾着田周辺の川沿いへ向かった。

自分の泊まるテントの設営、班ごとに食事の準備。野外での食事はとてもおいしく、楽しく過ごすことができた。暗くなってから、ヘッドライトをつけて日和田山へと向かった。暗い道を歩く事に不安があったけれど、LEDのヘッドライトはとても明るく、足元を照らすと歩きやすい。途中ヘッドライトを全員で消してみた。真暗でどちらに進んでいいのかまったくわからない。ヘッドライトを持参する事の大切さを実感した。

その後、テント近くの明かりを皆で囲んで、いろいろな話を聞くことができた。

翌朝は5:00起床。思っていたより、よく眠る事ができた。朝食、テント撤収片付けをしてから、実技学習の日和田山へと向かった。テント泊を行った事がないので、不安を抱えながらの参加となったが、運営委員の方の指導の下、楽しく過ごせ、貴重な体験をする事ができた。

8月4日(日) 10:00~15:00 実技学習 日和田山にて

2日目の実技学習は簡易ハーネスを作る事から始まった。入校した時に用意したカラビナ、ロープをいよいよ使う時が来た。これを身につけているだけでも、登山慣れしているように見える??ロープを張った横に全員並び、ロープの結び方を練習。ムンターヒッチ、W8の字、フリクションノット・・・名前を聞いているだけでも混乱する。緩やかな傾斜の所で、下降と引き上げの練習。体重を乗せるとスルスルと降りていくが、コツをつかむのが難しい。その後負傷者の移動法を実演。ザックを使っての背負い法を交代で体験。Tシャツやテープを使った担架の作り方や、ストック2本で作る松葉杖など、なるほど!と思う事ばかりだった。ロープの結び方は、何回も練習して体で覚える事!という運営委員の方のお話があった。繰り返し練習をして、ロープワークを身につけていきたい。また自分が救護される側にならないように、体調管理や歩き方に気をつけて、山歩きに望みたいと思った。



登山学校

⑤

第18期登山学校 第3回講座 「山での救急法」に参加して 18期生 飯野 繁美 記
講座も今回で第3回目を迎え、「山での救急法」を学ぶべく集合、8月3日は北浦和カステスホールでの机上講座、4日は実技学習を日和田山で行われた。

しかし、今回は今までになかった特別講座「テント泊体験講座」が希望者のみではあったが追加講座として加わり、充実した講義内容であったと思う。

初日のカステスホールでの机上講座では、心肺蘇生の講義から始まり、周囲の安全確認、反応の確認及び応援の要請などの手順を確認後、呼吸を確認する「見て」「聴いて」「感じて」を意識しながら正常か心肺停止状態かの判断を行った後、人工呼吸、胸骨圧迫へと進む手順など、一通り説明を受けた後、2班に別れ、全員が練習した、特に胸部圧迫を継続するためには、かなりの体力が必要な事には驚かされた。

次に、各自が用意してきた三角巾を使った、たたみ三角巾のつくりかた、結び方、結び目の解き方、頭や膝などを怪我した時の三角巾の巻き方、足首を捻挫した様な場合に三角巾を使って固定する方法など意外と幅ひろく使える三角巾には驚くばかりでしたが、今回は特別講座も加わった為、机上講義は14:00で終了となり、テント泊体験講座の参加希望者は、北浦和駅から高麗駅に向けて、そろって出発、キャンプ地は日和田山近くの巾着田、着くと早々に高麗川の川原へテントを運び、運営委員の方々の指導のもと、テントを設営、用意して頂いた、コンロや鍋、食材を各班に分配し夕食の準備、テント場には水道、トイレなどが完備されていた為、思ったよりスムーズに夕食の準備を完了、班ごとに楽しい夕食の時間を過ごしている間にあたりは真っ暗になり、あちこちにランタンの明かりが輝き始めテント泊の気分も盛り上がって来ました、食事の片付けを終えたころ希望者で夜間走行（ヘッドライト使用体験）体験に出かけることになり、日和田山に向かいましたが登山道に入ってしまったら、運営委員の方から全員ライトを消して下さいとの指示を受け、ライトを消すと隣の人も見えないほど真っ暗、山ではライト明かりが無ければ一步も歩けない事が話ではなく体験して良くわかる貴重な夜間走行体験を実施して頂いた事を感謝するしだいです。

又、山頂までは行きませんでした、山頂手前の鳥居付近で見下ろした町の夜景や花火大会の花火がとてもきれいで癒されました。

テント場に戻り、残留組と寝酒の一杯を酌み交わし、各テントに納まり就寝、暑かったので、マットのみで寝袋を使う事なしにごろ寝してしまい、翌日は5:00に起床、朝食やらテント撤収を済ませ、8:00少し過ぎに今日の集合場所である日和田山に向かって出発、早めにつき、今日の合流組を待つ間しばしの休憩。

2日目の実技はセルフレスキューの為のロープワーク、簡易ハーネスの作り方から各種ロープの結び方を学んだ後、山の斜面にロープを張り、ムンターヒッチを利用した懸垂下降やガルダーヒッチを利用した3分の1の引上げ法などを実際に運営委員の方々の指導のもと実施し、ロープワークを学び午前の講義を終了しました。

午後からは、負傷者の移動と背負い法の紹介、担架や松葉杖の作り方、ツェルトの張り方を紹介頂き、ザックを利用した背負い法では実際に各人が負傷者を背負って歩いてみるなどの貴重な経験をする事ができ、今後、万が一の事故に応用できる内容が盛りだくさんの講義でした。今回学んだ山での救急法は、帰宅後もテキストを再確認し、イメージトレーニングを繰り返し練習するなどし、いざと言う時に役立てる事が出来るように努力したいと思います。

最後になりましたが、運営委員の皆様には、御指導頂き心よりお礼申し上げます。

岩ネット

①

第3回 6月15日(土) 岩ネットに参加して
彩の山友会 光岡 智哉記



天候：雨のち曇り

日和田山ゲレンデに登ったのは17期登山学校の「岩登り入門」以来でした。

その間、屋内のクライミングジムに数回通いましたが、ロープワークやら登り方を完全に忘れていました。

また、当日は雨が降った影響もあり、とにかく岩が指に掛からずに滑りました。

ガバならなんとかなりますが、辛うじて指がかかる様な所では、岩を掴む事が出来ません。

こまめにチョークをつけないと、すぐに水分を含んでヌルヌルなり抵抗がかかりません。

ゆるい傾斜のところは何とか登っていましたが、オーバーハングをクリアする事が出来ませんでした。

また、今回はビレイヤーに挑戦しました。登るスピードに合わせてロープを張る事の大変さがわかりました。急がないとすぐにロープが弛んでしまいます。下降時のロープの出す量やタイミングがスムーズにできず、ギクシャクした事が反省点です。相手が安心して登り降り出来る様に技術を付けていきたいです。

今後は、登るコツもそうですがロープワークを忘れないためにも、欠かさず参加したいと思います。

また、自然相手のスポーツなので、いつもコンディションが良いとは限らない事を肝に銘じて、悪天候の時こそ意欲的に練習をしていきたいです。





岩ネット

②



岩ネットに参加して 新座山の会 岡本静江記

7月13日(土) 県連岩ネット主催の岩トレに参加しました。

西武線の高麗駅で下車し、鹿台橋を渡るとすぐ左に曲がり、右側の民家の間を抜け、山道に入り、2,30分ほどでゲレンデに到着する。たぶん日和田山の中腹辺りになるのであろう。樹林のなかに男岩と女岩があり、クライミングの練習場になっている。

初心者の私には解らないが小さなゲレンデではあるがルート数が多くあり、変化に富んで楽しめるといわれているらしい。

いつも簾のようにロープが下がっているのをみても人気があることが伺われる。

今日は3連休の初日で、山に出かけた方が多いのだろう。参加者は講師を含め6名。身支度を整え、講師から今日の予定の説明を受け、参加同意書に署名をして、男岩南面に移動する。男岩は下から見上げると、とても高く、高度感のある岩である。

登れるのかな。一瞬引いてしまう。先にビレーをする。Oさん私のビレーでは不安かな。覚えたビレーが何か変。手順が一つ抜けている。再度講師に確認をして無事に役目を終える。

次は登る番。手を開き、岩から体を離し、足元をしっかりと確認し、体重移動をし、足でのぼる。靴を外に出す。何とか理解はするが体がついていかない。どうにか完登して、テンションをかけておりる。

これがまた大変。私は素直にまっすぐ降りているつもりであるが下りるにつれ左寄りになり振られてしまう。足場を選ばないと習うが楽そうに見える方に意識が行ってしまう。

2本目は少し難しい所を選んでいくが岩に引かなかったロープをはずそうと懸命になっているうちに手の力がなくなり中間辺りで諦めて降下(ト・ホ・ホ・)

午前の最後は岩の上部でビレーをしてもらい、ハングを越えて岩の上部に上がる。

下を覗くとかなりの高度感がある。降下開始。

ハングの一步にもたつくが何とか地に足を下ろし、昼食タイムとなる。

午後は西面に移り練習をする。ここには松ノ木ハング、重箱などという難しいところがあり、夏山訓練なのだろうか登山靴で登っているグループがある。そんな中で比較的安易なところを選んで登るが、南面より直立で難しいと感じる。

2度登り今日の練習は終了。

思うようにならず難しいがそこが面白くもある。

ご指導ありがとうございました。良い講師陣に恵まれて、少しずつでも進歩するように回を重ねて行きたいと思います。これからもよろしくおねがいいたします。

次回が楽しみです。



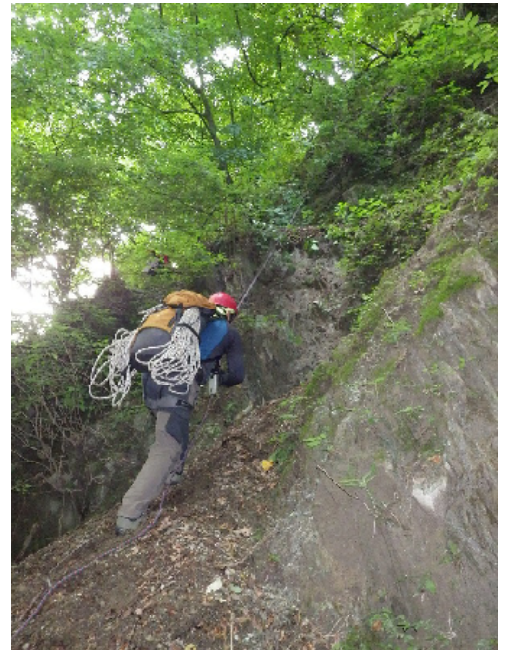
救 助 隊

救助隊沢訓練 武甲山橋立川本流
木阪 康弘（ハイジアルペンクラブ）

私としての初めての救助隊訓練は、武甲山の橋立川。尾根を登っていた登山者が行方不明になった事を想定し、沢筋での登山者の搜索と発見場所への救援物資の供給が目的だ。当日は、柴山リーダーのもと、隊員9名が参加。沢を搜索する4名と廃道をシラジクボまで歩いて物資搬送の拠点へ行く4名の2班に分かれて行動する。

私は廃道のメンバーとして沢沿いの登山道へ。登山道は橋立川に沿っていて、柴山リーダーは核心部である15mの滝の上部に手際よく支点を作り、後続のメンバーが確実に大滝をクリアしていく。廃道班の核心部は登山道が崩れた所のトラバース。先頭の柿田さんは何ともなく渡りきり自分も行けると思ったものの柔らかい足場と崩れやすいホールドに苦戦。その後にフィックスロープを設置したが、自分としては久しぶりのヒヤヒヤもののトラバースだった。このような場所でのロープの出すタイミングやフィックスロープの作り方など、これから習得しなければいけないことも数多い。

その他、ルートファインディング・パーティ相互及び搜索本部となって頂いた水谷さんとの携帯電話・無線器での連絡などこれまた勉強になることが目白押しだ。沢登り班とシラジクボで無事に再会し、廃道班が登りに間違えたルートを下りで確認。フィックスロープを出した箇所は一旦沢に下りて、沢からゴボウ登りで登山道へ迂回。搜索隊8名は無事に水谷さんの待つ、登山口へ戻ることが出来た。私としては初めての訓練だったが、事前打ち合わせで「山を自由に歩ける能力を付けてほしい」という救助隊心得の第一歩としてふさわしい訓練になったと思う。途中背負っていたロープをデポして？しまった事、反省しきりでございます。



山行日

平成25年7月20日（日曜日）

林道終点・沢との分岐点（11：55）

・・・巻道分岐点（13：20）

・・・シラジクボ着（13：44）

沢登り班との合流（14：20）

シラジクボ発（14：40）

・・・廃道との分岐点（14：56）

・・・林道終点（16：16）

